

平成 30 年度
精神科在院患者調査
報告書 [堺市版]

堺 市

目 次

第1章 調査の概要

1 調査の目的及びこの報告書について	1
2 調査の方法	1
(1)調査の対象	1
(2)調査の実施方法	1
(3)調査の内容	1
3 調査結果の概要	2
(1)状態像区分	2
(2)状態像区分〔長期(1年以上)入院者〕	2
(3)状態像区分〔65歳以上の長期(1年以上)入院者〕	2
(4)概要資料	3
①「堺市内精神科病院への入院者数・堺市民の精神科病院入院者数」	3
②-1「大阪府下 堺市民の精神科病院の入院状況(病院圏域別)」	4
②-2「大阪府下 堺市民の精神科病院の入院状況図(病院圏域別)」	4

第2章 在院患者調査結果

1 年齢区分	5
2 入院形態区分	5
3 疾患名区分	6
4 在院期間区分	7
5 入院時の住所地区分	7
6 状態像区分	7
7 退院阻害要因〔寛解・院内寛解群〕	8
8 経年推移	9
(1)入院者数の推移	9
(2)年齢区分における推移〔長期(1年以上)入院者〕	9
(3)疾患名区分における推移〔長期(1年以上)入院者〕	10

■巻末資料

- ・参考資料1 在院患者調査 集計データ 資料 1～6
- ・参考資料2 平成 30 年度在院患者調査 記入の手引き 資料 7～8

第1章 調査の概要

1 調査の目的及びこの報告書について

本調査は、大阪府内の精神科病床を有する医療機関における入院患者の状況を明らかにし、障害福祉政策の基礎資料とすることを目的に、大阪府、大阪市とともに実施した。

この報告書は、その結果を特に本市で活用するために、堺市版として作成した。

2 調査の方法

(1) 調査の対象

平成30年6月30日現在、大阪府内の精神科病床を有する医療機関に入院中の者

(2) 調査の実施方法

大阪府内の精神科病床を有する医療機関（61病院）に調査票を送付し、従事者からの回答（16,065票）を得た。

なお、この報告書は、その中から入院時住所地が堺市である者を抽出したものであり、1,565票を対象としたものである。

二次医療圏域別 精神科病床数(平成30年6月30日現在)

圏域名	保健所名	医療機関数	精神科許可病床数	休床数	稼働病床数	人口(H30.4.1)	許可病床数/万人 ※
堺市	堺市	5	2,571	30	2,541	831,858	30.9
豊能	池田・豊中市・吹田	6	2,035	0	2,035	1,044,906	19.5
三島	茨木・高槻市	7	2,324	32	2,292	746,522	31.1
北河内	枚方市・寝屋川・守口・四條畷	9	1,791	93	1,698	1,149,247	15.6
中河内	八尾市・東大阪市	4	1,740	3	1,737	832,949	20.9
南河内	藤井寺・富田林	6	1,530	0	1,530	602,418	25.4
泉州	和泉・岸和田・泉佐野	17	6,040	4	6,036	894,527	67.5
大阪市	大阪市	7	235	0	235	2,716,989	0.9
計		61	18,266	162	18,104	8,819,416	20.7

※小数点第二位以下四捨五入

(3) 調査の内容

基礎項目は、厚生労働省が実施する「精神保健福祉資料（平成30年6月30日現在）」の調査項目とした。

3 調査結果の概要

(1) 状態像区分

状態像区分ごとの集計結果は、以下のとおりであった。

なお、() 内は前年比、[] 内は全体に対する割合である（以下すべて同じ）。

全体 1,565 人 (-7) [100%]						
状態像区分	最重度	重度	中等度	軽度	院内寛解	寛解
	50	347	652	328	149	39
	397 人 [25.4%]		980 人 [62.6%]		<u>188 人 (-49)</u> [12.0%]	

(2) 状態像区分〔長期(1年以上)入院者〕

(1)の内訳として、1年以上の入院者（長期入院者）の集計結果は、以下のとおりであった。

全体 917 人 (-19) [100%]						
状態像区分	最重度	重度	中等度	軽度	院内寛解	寛解
	35	235	428	178	30	11
	270 人 [29.4%]		606 人 [66.1%]		<u>41 人 (-45)</u> [4.5%]	

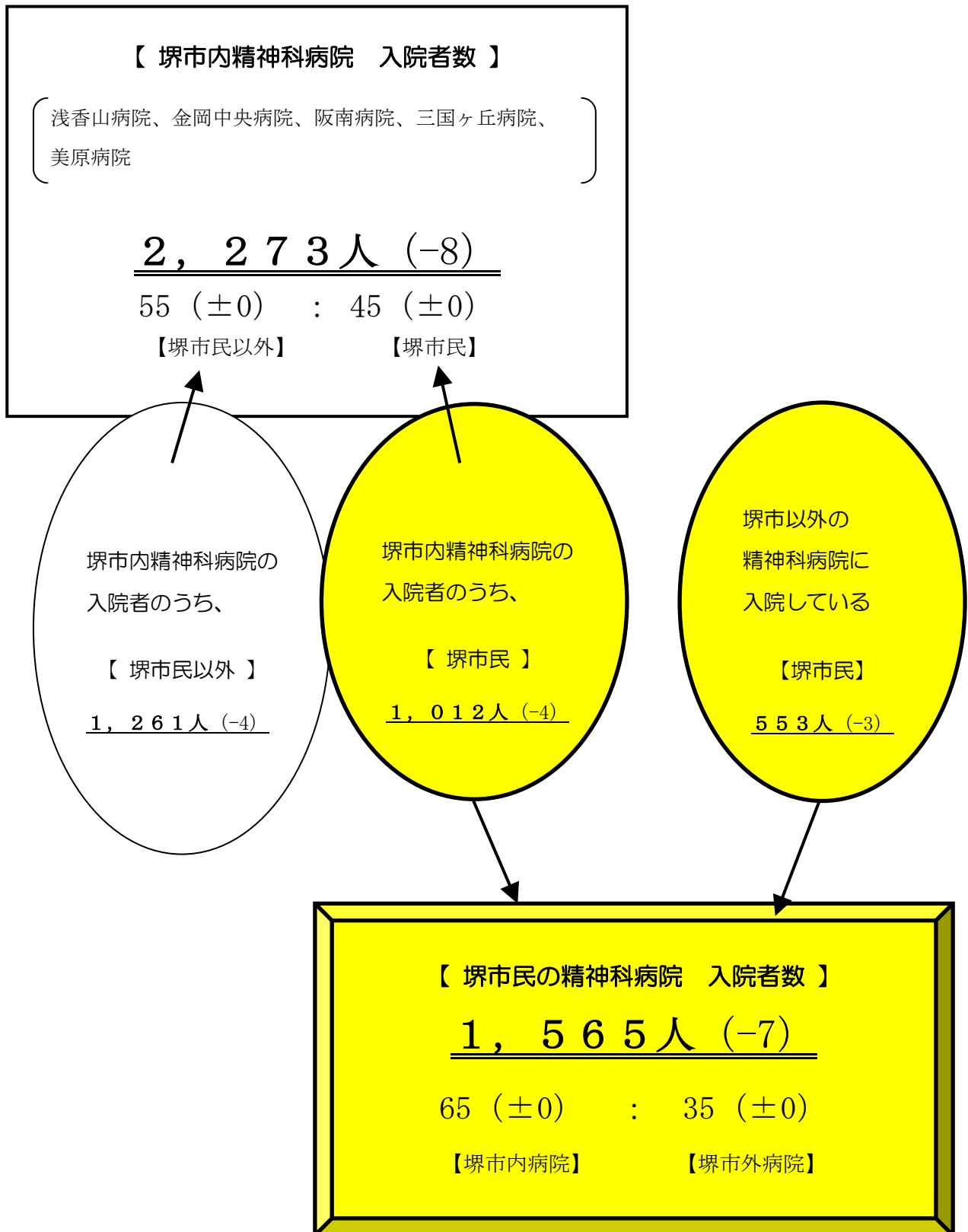
(3) 状態像区分〔65歳以上の長期(1年以上)入院者〕

(2)の内訳として、1年以上の入院者（長期入院者）のうち、65歳以上の集計結果は、以下のとおりであった。

全体 549 人 (-31) [100%]						
状態像区分	最重度	重度	中等度	軽度	院内寛解	寛解
	14	136	262	114	15	6
	150 人 [27.4%]		376 人 [68.7%]		<u>21 人 (-33)</u> [3.9%]	

(4) 概要資料

① 「堺市内精神科病院への入院者数・堺市民の精神科病院入院者数」



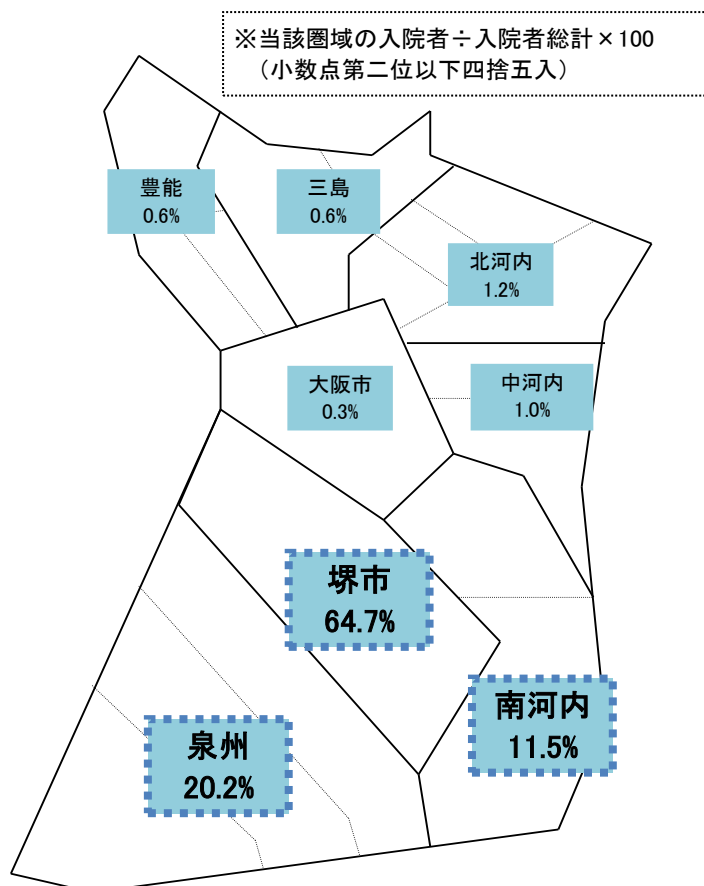
②-1 「大阪府下 堺市民の精神科病院の入院状況(病院圏域別)」

精神科病院の所在地(圏域)	保健所名	精神科病院数	入院時堺市民	寛解・院内寛解	1年以上かつ寛解・院内寛解
堺市	堺市	5	1,012	103	19
豊能	池田・豊中市・吹田	6	10	2	1
三島	茨木・高槻市	7	9	0	0
北河内	枚方市・寝屋川・守口・四條畷	9	18	3	0
中河内	八尾市・東大阪市	4	15	6	3
南河内	藤井寺・富田林	6	180	28	8
泉州	和泉・岸和田・泉佐野	17	316	45	10
大阪市	大阪市	7	5	1	0
堺市外 総数		56	553	85	22
総言十		61	1,565	188	41

②-2 「大阪府下 堺市民の精神科病院の入院状況図(病院圏域別)」

■入院者が多い圏域の保健所別内訳

圏域	保健所名	入院者数	割合
堺市	堺市	1,012	64.7%
南河内	藤井寺	18	1.1%
	富田林	162	10.4%
	計	180	11.5%
泉州	和泉	177	11.3%
	岸和田	111	7.1%
	泉佐野	28	1.8%
	計	316	20.2%



第2章 在院患者調査結果

1 年齢区分

入院者 1,565 人を年齢区分別で集計すると、以下の表のとおりであった。

「70 歳代」が 25.2%と最も多く、「60 歳代」が 21.5%、「80 歳代」16.6%の順になっている。

年齢区分	人数	割合 (%)	長期(1年以上)入院者数	左記の内 寛解・院内寛解
19 歳以下	22	1.4	2	0
20 歳代	37	2.4	11	1
30 歳代	71	4.5	26	0
40 歳代	181	11.6	99	9
50 歳代	221	14.1	141	6
60 歳代	337	21.5	218	12
70 歳代	394	25.2	255	10
80 歳代	260	16.6	140	3
90 歳以上	42	2.7	25	0
総計	1,565	100	917	41
65 歳未満(再掲)	672	42.9	370	20
65 歳以上(再掲)	893	57.1	547	21

2 入院形態区分

入院者 1,565 人を入院形態区分別で集計すると、以下の表のとおりであった。

入院形態区分	人数	割合 (%)	長期(1年以上)入院者数	左記の内 寛解・院内寛解
措置・緊急措置	3	0.2	0	0
医療保護	877	56.0	513	6
任意	682	43.6	403	35
応急	1	0.1	0	0
その他	2	0.1	1	0
総計	1,565	100	917	41

3 疾患名区分

入院者 1,565 人を疾患名区分別で集計すると、以下の表のとおりであった。

「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 (F2)」が 53.7%と最も多くなっている。

疾患名区分	人数	割合 (%)	長期(1年以上)入院者数	左記の内 寛解・院内寛解
F0 症状性を含む器質性精神病	338	21.6	162	3
F00 アルツハイマー病の認知症を含む器質性精神障害	(162)	10.4	(73)	(1)
F01 血管性認知症を含む器質性精神障害	(15)	1.0	(8)	(0)
F02-F09 アルツハイマー病の認知症・血管性認知症以外の症状性を含む器質性精神障害	(161)	10.3	(81)	(2)
F1 精神作用物質使用による精神及び行動の障害	108	6.9	34	5
F2 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	841	53.7	615	26
F3 気分(感情)障害	179	11.4	63	6
F4 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	34	2.2	9	0
F5 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	3	0.2	0	0
F6 成人の人格及び行動の障害	3	0.2	1	0
F7 精神遅滞 (知的障害)	27	1.7	19	1
F8 心理的発達の障害	9	0.6	3	0
F9 小児期及び青年期の通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	5	0.3	3	0
G4 てんかん(症状性を含む器質性障害(F0)に属さないもの)	4	0.3	3	0
その他	14	0.9	5	0
総計	1,565	100	917	41

なお、年齢区分とクロス集計すると、入院者数は以下の表のとおりであった。

区分	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
F0	1	1	4	5	7	35	97	153	35
F1	0	1	6	14	23	26	27	10	1
F2	3	15	41	133	160	230	196	60	3
F3	3	5	10	17	24	34	58	27	1
F4	6	5	3	1	2	2	6	8	1
F5	1	2	0	0	0	0	0	0	0
F6	0	0	2	0	1	0	0	0	0
F7	1	3	3	10	3	4	3	0	0
F8	4	3	2	0	0	0	0	0	0
F9	2	1	0	0	0	1	1	0	0
G4	0	1	0	1	0	2	0	0	0
その他	1	0	0	0	1	3	6	2	1

4 在院期間区分

入院者 1,565 人を在院期間区分別で集計すると、以下の表のとおりであった。

在院期間 1 年未満が 41.4%である一方で、在院期間 10 年以上も 21.3%となっている。

在院期間区分	人数	割合 (%)	長期(1 年以上)入院者数	左記の内 寛解・院内寛解
1 ヶ月未満	192	12.3	-	-
1 ヶ月～3 ヶ月未満	222	14.2	-	-
3 ヶ月～6 ヶ月未満	115	7.3	-	-
6 ヶ月～1 年未満	119	7.6	-	-
1 年～1 年 6 ヶ月未満	95	6.1	95	6
1 年 6 ヶ月～2 年未満	57	3.6	57	6
2 年～3 年未満	91	5.8	91	2
3 年～4 年未満	79	5.0	79	4
4 年～5 年未満	54	3.5	54	2
5 年～6 年未満	59	3.8	59	3
6 年～7 年未満	51	3.3	51	4
7 年～8 年未満	41	2.6	41	2
8 年～9 年未満	32	2.0	32	2
9 年～10 年未満	25	1.6	25	1
10 年～20 年未満	169	10.8	169	6
20 年以上	164	10.5	164	3
総計	1,565	100	917	41
1 年未満(再掲)	648	41.4	-	-
1 年以上 5 年未満(再掲)	376	24.0	376	20
5 年以上 10 年未満(再掲)	208	13.3	208	12
10 年以上(再掲)	333	21.3	333	9

5 入院時の住所地区分

第 1 章「3 調査結果の概要」(P.3～4) のとおり

6 状態像区分

第 1 章「3 調査結果の概要」(P.2) のとおり

7 退院阻害要因〔寛解・院内寛解群〕

寛解・院内寛解である入院者 188 人を退院阻害要因の有無で集計すると、以下の表のとおりであった。「退院予定」が最も多く、53.2%となっている。

退院阻害要因の有無 〔寛解・院内寛解群〕	人数	割合 (%)	長期(1年以上) 入院者数
退院阻害要因がある	58	30.9	32
退院阻害要因はない	16	8.5	4
病状(主症状)が退院のレベルに至っていない	14	7.4	2
退院予定	100	53.2	3
総計	188	100	41

寛解・院内寛解である入院者 188 人のうち、「退院阻害要因がある」58 人の退院阻害要因（複数回答）を集計すると、以下の表のとおりであった。なお、各項目における割合は「退院阻害要因がある」58 人に対するものである。

寛解・院内寛解である入院者で、「退院阻害要因がある」者のうち、長期入院者の退院阻害要因をみると、「退院意欲が乏しい」が最も多く、続いて「退院による環境変化への不安が強い」「住まいの確保ができない」「現実認識が乏しい」の順になっている。

※複数回答可能

退院阻害要因 〔寛解・院内寛解群〕	人数	割合 (%)	長期(1年以上) 入院者数
病状が不安定	8	5.4	3
病識がなく通院服薬の中断が予測される	9	6.1	8
反社会的行動が予測される	0	—	0
退院意欲が乏しい	25	17.0	18
現実認識が乏しい	14	9.5	10
退院による環境変化への不安が強い	24	16.3	14
援助者との対人関係がもてない	2	1.4	1
家事(食事・洗濯・金銭管理など)ができない	13	8.8	8
家族がいない、本人をサポートする機能が実質ない	6	4.1	6
家族から退院に反対がある	9	6.1	7
住まいの確保ができない	16	10.9	10
生活費の確保ができない	2	1.4	2
日常生活を支える制度がない	1	0.7	1
救急診療体制がない	0	—	0
退院に向けてサポートする人的資源が乏しい	4	2.7	2
退院後サポート・マネジメントする人的資源が乏しい	5	3.4	3
住所地と入院先の距離があり支援体制をとりにくい	0	—	0
その他	9	6.1	4

8 経年推移

(1)入院者数の推移

平成 24 年から 30 年までの入院者数の推移は、以下の表のとおりであった。

病院所 在地	入院者数						
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
堺市内	1,113	1,085	1,109	1,068	1,037	1,016	1,012
堺市外	638	599	632	607	587	556	553
総計	1,751	1,684	1,741	1,675	1,624	1,572	1,565

(2)年齢区分における推移〔長期(1年以上)入院者〕

年齢区分における推移〔長期(1年以上)入院者〕は、以下の表のとおりであった。

なお、[]内は各年度における全体に対する割合である。

全体としては概ね横ばい傾向で推移しているが、30歳代及び60歳代は減少傾向にある。

年齢 区分	長期(1年以上)入院者数						
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
19 歳以下	1 [0.1%]	1 [0.1%]	2 [0.2%]	1 [0.1%]	0 [0.0%]	1 [0.1%]	2 [0.2%]
20 歳代	7 [0.6%]	6 [0.6%]	6 [0.6%]	5 [0.5%]	3 [0.3%]	2 [0.2%]	11 [1.2%]
30 歳代	63 [5.6%]	61 [5.7%]	44 [4.6%]	34 [3.3%]	34 [3.4%]	30 [3.2%]	26 [2.8%]
40 歳代	113 [10.0%]	133 [12.3%]	122 [12.7%]	130 [12.6%]	118 [11.6%]	99 [10.6%]	99 [10.8%]
50 歳代	162 [14.4%]	170 [15.8%]	148 [15.4%]	171 [16.6%]	168 [16.6%]	169 [18.0%]	141 [15.4%]
60 歳代	350 [31.1%]	324 [30.1%]	266 [27.7%]	277 [26.9%]	274 [27.0%]	238 [25.4%]	218 [23.8%]
70 歳代	281 [25.0%]	247 [22.9%]	243 [25.3%]	271 [26.3%]	258 [25.4%]	244 [26.1%]	255 [27.8%]
80 歳代	130 [11.5%]	121 [11.2%]	110 [11.5%]	125 [12.1%]	132 [13.0%]	128 [13.7%]	140 [15.3%]
90 歳以上	19 [1.7%]	15 [1.4%]	19 [2.0%]	16 [1.6%]	27 [2.7%]	25 [2.7%]	25 [2.7%]
総計	1,126	1,078	960	1,030	1,014	936	917
65歳 未満 (再掲)	542[48.1%]	532[49.4%]	449[46.8%]	572[55.5%]	434[42.8%]	387[41.3%]	370[40.3%]
65歳 以上 (再掲)	584[51.9%]	546[50.6%]	511[53.2%]	458[44.5%]	580[57.2%]	549[58.7%]	547[59.7%]

(3)疾患名区分における推移〔長期(1年以上)入院者〕

疾患名区分における推移〔長期(1年以上)入院者〕は、以下の表のとおりであった。

なお、〔 〕内は各年度における全体に対する割合である。

全体として、概ね横ばい傾向で推移している。

疾患名区分	長期(1年以上)入院者数						
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
F0 症状性を含む器質性精神病	176 [15.6%]	151 [14.0%]	133 [13.9%]	151 [14.7%]	153 [15.1%]	143 [15.3%]	162 [17.7%]
F1 精神作用物質使用による精神及び行動の障害	35 [3.1%]	42 [3.9%]	48 [5.0%]	50 [4.9%]	48 [4.7%]	37 [4.0%]	34 [3.7%]
F2 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	794 [70.5%]	776 [72.0%]	670 [69.8%]	716 [69.5%]	703 [69.3%]	641 [68.5%]	615 [67.1%]
F3 気分(感情)障害	50 [4.4%]	43 [4.0%]	57 [5.9%]	63 [6.1%]	67 [6.6%]	70 [7.5%]	63 [6.9%]
F4 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	14 [1.2%]	6 [0.6%]	5 [0.5%]	4 [0.4%]	8 [0.8%]	7 [0.7%]	9 [1.0%]
F5 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	1 [0.1%]	0 [-]	1 [0.1%]	0 [-]	0 [-]	0 [-]	0 [-]
F6 成人の人格及び行動の障害	1 [0.1%]	5 [0.5%]	2 [0.2%]	3 [0.3%]	2 [0.2%]	4 [0.4%]	1 [0.1%]
F7 精神遅滞(知的障害)	38 [3.4%]	37 [3.4%]	25 [2.6%]	25 [2.4%]	27 [2.7%]	23 [2.5%]	19 [2.1%]
F8 心理的発達の障害	3 [0.3%]	5 [0.5%]	6 [0.6%]	5 [0.5%]	0 [-]	1 [0.1%]	3 [0.3%]
F9 小児期及び青年期の通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	0 [-]	0 [-]	0 [-]	1 [0.1%]	0 [-]	1 [0.1%]	3 [0.3%]
G4 てんかん(症状性を含む器質性障害(F0)に属さないもの)	6 [0.5%]	7 [0.6%]	4 [0.4%]	7 [0.7%]	5 [0.5%]	4 [0.4%]	3 [0.3%]
その他	8 [0.7%]	6 [0.6%]	9 [0.9%]	5 [0.5%]	1 [0.1%]	5 [0.5%]	5 [0.5%]
総計	1,126	1,078	960	1,030	1,014	936	917

卷末資料

1-① 年齢区分

年齢区分	全市	市内病院	市外病院
19 歳以下	22	17	5
20 歳代	37	22	15
30 歳代	71	44	27
40 歳代	181	121	60
50 歳代	221	140	81
60 歳代	337	221	116
70 歳代	394	258	136
80 歳代	260	169	91
90 歳以上	42	20	22
総計	1,565	1,012	553

1-② 年齢区分(寛解・院内寛解対象)

年齢区分	全市			市内病院			市外病院		
	寛解	院内寛解	計	寛解	院内寛解	計	寛解	院内寛解	計
19 歳以下	2	1	3	2	0	2	0	1	1
20 歳代	1	6	7	0	3	3	1	3	4
30 歳代	3	7	10	1	4	5	2	3	5
40 歳代	6	26	32	1	16	17	5	10	15
50 歳代	5	24	29	3	13	16	2	11	13
60 歳代	10	32	42	5	17	22	5	15	20
70 歳代	8	35	43	3	20	23	5	15	20
80 歳代	4	17	21	4	10	14	0	7	7
90 歳以上	0	1	1	0	1	1	0	0	0
総計	39	149	188	19	84	103	20	65	85

2-① 入院形態区分

入院形態区分	全市	市内病院	市外病院
措置入院・緊急措置入院	3	3	0
医療保護入院	877	614	263
任意入院	682	395	287
応急入院	1	0	1
その他	2	0	2
総計	1,565	1,012	553

2-② 入院形態区分(寛解・院内寛解対象)

年齢区分	全市			市内病院			市外病院		
	寛解	院内寛解	計	寛解	院内寛解	計	寛解	院内寛解	計
措置入院・緊急措置入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医療保護入院	13	41	54	6	31	37	7	10	17
任意入院	26	107	133	13	53	66	13	54	67
応急入院	0	1	1	0	0	0	0	1	1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総計	39	149	188	19	84	103	20	65	85

3-① 疾患名区分

疾患名区分	全市	市内病院	市外病院
F0 症状性を含む器質性精神病	338	211	127
F00 アルツハイマー病の認知症を含む器質性精神障害	(162)	(106)	(56)
F01 血管性認知症を含む器質性精神障害	(15)	(7)	(8)
F02-F09 アルツハイマー病の認知症・血管性認知症以外の症状性を含む器質性精神障害	(161)	(98)	(63)
F1 精神作用物質使用による精神及び行動の障害	108	33	75
F2 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	841	593	248
F3 気分(感情)障害	179	118	61
F4 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	34	20	14
F5 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	3	3	0
F6 成人の人格及び行動の障害	3	1	2
F7 精神遅滞 (知的障害)	27	13	14
F8 心理的発達の障害	9	6	3
F9 小児期及び青年期の通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	5	2	3
G4 てんかん(症状性を含む器質性障害(F0)に属さないもの)	4	3	1
その他	14	9	5
総計	1,565	1,012	553

3-② 疾患名区分(寛解・院内寛解対象)

疾患名区分	全市			市内病院			市外病院		
	寛解	院内寛解	計	寛解	院内寛解	計	寛解	院内寛解	計
F0	7	19	26	4	15	19	3	4	7
F00	(5)	(8)	(13)	(3)	(6)	(9)	(2)	(2)	(4)
F01	(0)	(1)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(1)
F02-F09	(2)	(10)	(12)	(1)	(9)	(10)	(1)	(1)	(2)
F1	2	41	43	0	18	18	2	23	25
F2	17	43	60	7	25	32	10	18	28
F3	10	35	45	6	20	26	4	15	19
F4	3	6	9	2	3	5	1	3	4
F5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
F6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
F7	0	3	3	0	1	1	0	2	2
F8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
F9	0	0	0	0	0	0	0	0	0
G4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	2	2	0	2	2	0	0	0
総計	39	149	188	19	84	103	20	65	85

4-① 在院期間区分

在院期間区分	全市	市内病院	市外病院
1ヶ月未満	192	146	46
1ヶ月～3ヶ月未満	222	150	72
3ヶ月～6ヶ月未満	115	73	42
6ヶ月～1年未満	119	61	58
1年～1年6ヶ月未満	95	53	42
1年6ヶ月～2年未満	57	29	28
2年～3年未満	91	54	37
3年～4年未満	79	50	29
4年～5年未満	54	34	20
5年～6年未満	59	37	22
6年～7年未満	51	25	26
7年～8年未満	41	27	14
8年～9年未満	32	19	13
9年～10年未満	25	19	6
10年～20年未満	169	110	59
20年以上	164	125	39
総計	1,565	1,012	553

4-② 在院期間区分(寛解・院内寛解対象)

在院期間区分	全市			市内病院			市外病院		
	寛解	院内寛解	計	寛解	院内寛解	計	寛解	院内寛解	計
1ヶ月未満	12	36	48	7	24	31	5	12	17
1ヶ月～3ヶ月未満	6	47	53	3	29	32	3	18	21
3ヶ月～6ヶ月未満	6	25	31	4	13	17	2	12	14
6ヶ月～1年未満	4	11	15	1	3	4	3	8	11
1年～1年6ヶ月未満	0	6	6	0	3	3	0	3	3
1年6ヶ月～2年未満	0	6	6	0	4	4	0	2	2
2年～3年未満	2	0	2	0	0	0	2	0	2
3年～4年未満	2	2	4	2	2	4	0	0	0
4年～5年未満	1	1	2	1	1	2	0	0	0
5年～6年未満	1	2	3	0	1	1	1	1	2
6年～7年未満	1	3	4	0	0	0	1	3	4
7年～8年未満	1	1	2	1	0	1	0	1	1
8年～9年未満	1	1	2	0	0	0	1	1	2
9年～10年未満	0	1	1	0	0	0	0	1	1
10年～20年未満	1	5	6	0	3	3	1	2	3
20年以上	1	2	3	0	1	1	1	1	2
総計	39	149	188	19	84	103	20	65	85

5-① 入院時の住所地区分

入院時の住所地区分	全市	市内病院	市外病院
堺市	1,565	1,012	553

5-② 入院時の住所地区分(寛解・院内寛解対象)

入院時の住所地区分	全市			市内病院			市外病院		
	寛解	院内寛解	計	寛解	院内寛解	計	寛解	院内寛解	計
堺市	39	149	188	19	84	103	20	65	85

6-① 病状区分

病状区分	全市	市内病院	市外病院
寛解	39	19	20
院内寛解	149	84	65
軽度	328	208	120
中度	652	458	194
重度	347	223	124
最重度	50	20	30
総計	1,565	1,012	553

7-① 退院阻害要因の有無(寛解・院内寛解対象)

退院阻害要因の有無	全市	市内病院	市外病院
退院阻害要因がある	58	28	30
退院阻害要因はない	16	7	9
病状(主症状)が退院のレベルに至っていない	14	4	10
退院予定	100	64	36
総計	188	103	85

7-② 退院阻害要因(寛解・院内寛解対象)

※複数回答可能

退院阻害要因	全市	市内病院	市外病院
病状が不安定	8	2	6
病識がなく通院服薬の中断が予測される	9	3	6
反社会的行動が予測される	0	0	0
退院意欲が乏しい	25	12	13
現実認識が乏しい	14	8	6
退院による環境変化への不安が強い	24	11	13
援助者との対人関係がもてない	2	2	0
家事(食事・洗濯・金銭管理など)ができない	13	8	5
家族がいない・本人をサポートする機能が実質ない	6	3	3
家族から退院に反対がある	9	2	7
住まいの確保ができない	16	11	5
生活費の確保ができない	2	1	1
日常生活を支える制度がない	1	1	0
救急診療体制がない	0	0	0
退院に向けてサポートする人的資源が乏しい	4	1	3
退院後サポート・マネジメントする人的資源が乏しい	5	4	1
住所地と入院先の距離があり支援体制をとりにくい	0	0	0
その他	9	4	5

在院患者調査記入の手引き

平成 30 年度調査票の記入について

調査票のエクセルシートは2枚あります。「基礎情報シート」と「調査記入シート」の両方にご記入ください。

○基礎情報シート

病床数、ご担当者のお名前等について御記入ください。

○在院患者調査記入シート

昨年度までと調査票が違います。ご注意ください。

(1) 病院名と病院所在地(政令市は区まで)をご記入ください。

(2) 国の「精神保健福祉資料(630 調査)」で御記入いただいた調査票の中のエクセルシート「病院・診療所5」の入力部分をコピーして、在院患者調査の調査記入シートに貼り付けてください。

(3) 在院患者調査票の右側にある追加項目の部分をご記入ください。

① **状態像区分** →プルダウンメニュー(下記の6つの状態像から一つ選択)から選んでください

状態像について、次の区分・基準による番号をご記入ください。(区分及び基準は、平成5年1月に社団法人日本精神病院協会が実施された在院患者調査を参考にしております。)[「基準」の各項目は各区分の代表的な特徴を示したものです。区分を決定するにあたって、当該基準の全項目を満たす必要はありません。アルコール症、中毒性疾患に関しては、身体合併症、管理上の問題を併せて総合的に判断してください。

状態像区分	基準	番号
寛解	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 寛解状態にあるが、家族の受け入れ困難や生活の場の困難などの社会的要因により退院できないでいるもの ◇ 最小限の服薬は続けているが、社会生活上の支障は認められず、自立して生活出来ると予測されるもの 	1
院内寛解	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 院内の保護的環境においては、日常生活に問題はないが、一般社会においては不適応、症状増悪、再燃を起こしやすいもの ◇ 社会技能訓練等の包括的なりハビリテーション・プログラムにより、ある程度の自立性が期待できるもの 	2
軽度	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 日常生活機能が軽度障害とされているもの ◇ 病状が安定しつつあるか、または病状固定し、院内の薬物療法、生活療法下では日常生活に問題はないが、社会適応させるためには強力な精神科リハビリテーションを必要とするもの 	3
中等度	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 残遺状態(無関心、無為等) ◇ 慢性の幻覚妄想状態など、症状遷延しているが、著しい問題行動はないもの ◇ 日常生活機能が中程度障害されているもの ◇ 中程度のうつ状態、そう状態 	4
重度	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 陽性症状、或いは認知症のため行動の乱れが著しいもの ◇ 問題行動を伴う精神症状があり、治療抵抗性のもの ◇ 精神症状のために日常生活機能が障害され、きわめて濃厚な看護及び介護を要するもの ◇ 自殺企図あるうつ状態、そう状態の極期 	5
最重度	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 重大な他害行為が予測され、厳重かつ持続的な注意を要するもの ◇ 精神症状、人格水準の低下、認知症等により、著しい問題行動があり、たえず厳重な注意を要するもの 	6

②退院阻害要因

退院を阻害している要因の有無等について次の区分(90～99)による番号をプルダウンメニューから選んでください。

「退院阻害要因がある(91)」を選んだ場合は、下記の中から具体的要因を選び、該当する番号(1～18)を『要因(複数回答可)』欄に御記入ください。

※「病状が不安定」な患者については、下記(ア)、(イ)のどちらかで判断してください

(ア)「病状が不安定で入院による治療が必要」な場合は「98」を選択してください。

(イ)「患者の症状が落ち着き、入院によらない形で治療ができる程度まで回復したが、ときどき不安定な病状が見られ、そのことが退院を阻害する要因になっている」場合は「91」を選択のうえ退院阻害要因の項目の「1」を選んでください。

退院阻害要因の有無	番号
退院阻害要因はない	90
病状(主症状)が退院のレベルに至っていない	98
退院予定	99
退院阻害要因がある	91



「退院阻害要因がある(91)」場合の具体的要因(複数回答可)

病状が不安定	1
病識がなく通院服薬の中断が予測される。	2
反社会的行動が予測される	3
退院意欲が乏しい	4
現実認識が乏しい	5
退院による環境変化への不安が強い	6
援助者との対人関係がもてない	7
家事(食事・洗濯・金銭管理など)ができない	8
家族がいない、本人をサポートする機能が実質ない	9
家族から退院に反対がある	10
住まいの確保ができない	11
生活費の確保ができない	12
日常生活を支える制度がない	13
救急診療体制がない	14
退院に向けてサポートする人的資源が乏しい	15
退院後サポート・マネジメントする人的資源が乏しい	16
住所地と入院先の距離があり支援体制をとりにくい	17
その他の退院阻害要因がある	18

**平成 30 年度
精神科在院患者調査報告書 [堺市版]**

令和元年 8 月発行

発行 堺市健康福祉局 障害福祉部 障害施策推進課
〒590-0078 堺市堺区南瓦町 3 番 1 号
TEL 072-228-7818
FAX 072-228-8918